

COLLABO

2025 Vol.4



特集① 放課後子供教室

白岡市立菁莪小学校放課後子ども教室



特集② 学校応援団

上里町立長幡小学校

特集① 菁莪小学校放課後子ども教室

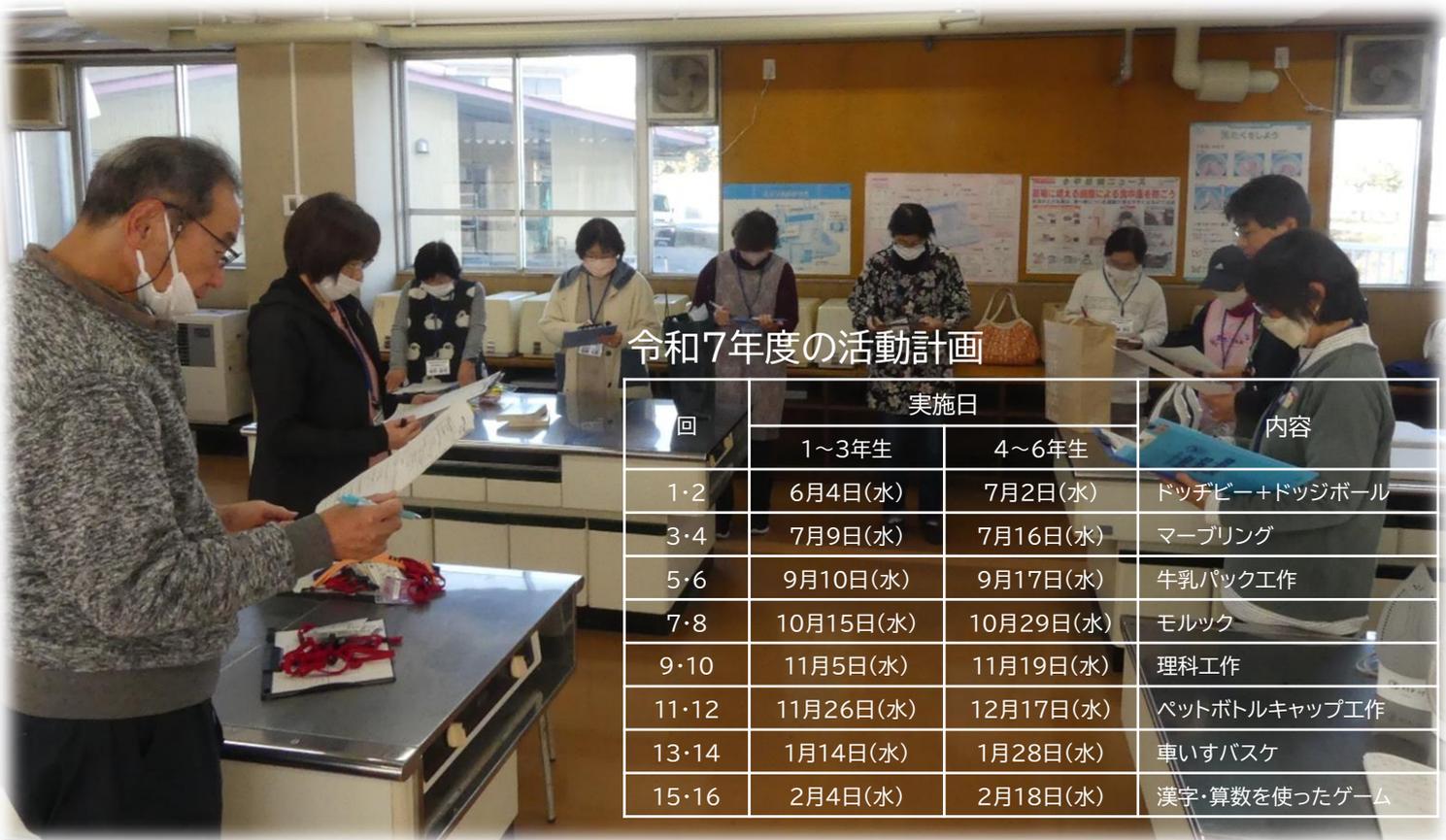
仲間とともに

二学期も終盤に差し迫った十二月。白岡市立菁莪小学校に訪問し、今年度十二回目となる放課後子ども教室の活動取材させていただきました。コーディネーターの石川さんは、これまでにPTA本部役員、学校応援団として読み聞かせを行うなど菁莪小の児童のために献身的に活動されてきました。石川さんについてコーディネーターとしての役割について伺うと、白岡市の教育委員会生涯学習課や、ボランティアスタッフへ連絡したり、日程調整したりすることだそう。この日、石川さんの他にスタッフとして集まったのは地域に住まう八名の方々。皆さんに放課後子ども教室のスタッフを始めたきっかけを伺ってみました。すると、多くの方が「知り合いに誘われて」「声をかけていただいた」と回答されました。

スタッフ八名のうち、女性が七名、男性が一名でした。男性の方は、定年まで働いてきて何か地域に貢献できることはないかと考えていたところ、掲示板に掲載されていた「放課後子ども教室のスタッフ募集について」が目にとまり、申し込まれたそうです。普段は力仕事を任せられることが多いようですが、同じスタッフの仲間であまり負担できていないそうで、「いつも子供たちから元気をいただいています。」とうれしそうにお話をしてくださいました。また女性のスタッフの中には、「引越してきて地域のことを何も知らない中、菁莪小放課後子ども教室に携わることです。新しい仲間ができてよかったです。」という方もいらっしゃいました。



コーディネーターの石川さん



令和7年度の活動計画

回	実施日		内容
	1~3年生	4~6年生	
1・2	6月4日(水)	7月2日(水)	ドッジビー+ドッジボール
3・4	7月9日(水)	7月16日(水)	マーブリング
5・6	9月10日(水)	9月17日(水)	牛乳パック工作
7・8	10月15日(水)	10月29日(水)	モルック
9・10	11月5日(水)	11月19日(水)	理科工作
11・12	11月26日(水)	12月17日(水)	ペットボトルキャップ工作
13・14	1月14日(水)	1月28日(水)	車いすバスケット
15・16	2月4日(水)	2月18日(水)	漢字・算数を使ったゲーム

活動前の打合せでこの日の内容を確認



すべてスタッフの手によるもの

役割分担を入念に

定員を超える

申し込み

菁莪小放課後子ども教室の定員は三十名ですが、ここ数年、定員を超える申込人数のため、低学年（一〜三年生）と高学年（四〜六年生）とに分けて開催しています。これまでにドッチビーやドッジボール、モルックといったスポーツの他、工作のプログラムが計画されており、この日は、高学年（二十四名）のペットボトルキャップ工作が家庭科室で開催されました。内容は、ペットボトルのキャップが細かく砕かれたものを並べてアイロンで熱を加え、かざりをつけるというもの。五年連続で放課後子ども教室に参加している五年生の姿もありました。

このペットボトルのキャップはスタッフの皆さんで分担して切ったのですが、すごく大変だったとのこと。ペットボトル飲料を多く消費する夏の時期からキャップを集め始め、はさみを使って切る中で、手が痛くなってしまうという方がいたこともあり、ペットボトルキャップを集めることに専念した方もいたそうです。

各自作業する中で、切れ味のいいはさみについて情報提供する方や、今回のペットボトル工作の完成品がどのようになるのか、仕事の合間に実際に作られた方も。子供たちは、色鮮やかなペットボトルキャップの切れ端から何を作ろうか、この色の組み合わせでどんなものになるのか、わくわくしながら選んでいます。選んだあとは、色の配置に気を付けながら小さなパーツを並べていきます。



いろんな形があって、選ぶのに迷ってしまいます

スタッフの皆さんは子供たちの活動の様子を見守り、できあがったものをアイロンで熱するのが主な仕事です。安全面に配慮して、アイロンの使い方を学習している学年であっても、アイロンは大人の手で行います。熱した後は、厚い本に挟んで、作品が反り返ってしまいうのを防ぎ、仕上がりきれいにします。その後、かざりをつけて完成。一つだけでなく、二つ三つ作り、その中から欠席者に渡せるようにしているそうです。



細かく切られたペットボトルキャップを慎重に並べます



家でも作れるように用意されたプリント



家庭科室のアイロンを使えることにも感謝



お休みの人の分まで

皆さんのおかげ

この日は季節柄、欠席者が多くいたこともあり、お休みした友達の分まで様々な作品を作ることを楽しんでいました。キャップがアイロンの熱で溶けることで色が混ざり、思いがけない作品となり驚いている子もいました。また、次の活動に向けて、準備することは大変でも子供たちの喜ぶ姿を思うと、少しも苦にならないのだろうな、と感じました。低学年で同じ内容を実施した際には、「スタッフの皆さんのおかげでいいものができました。」と、感想を述べた子もあり、低学年の子が自分たちのことを思って感想を話してくれたことに、スタッフの皆さんは、心を打たれたそうです。

白岡市では菁莪小学校を含め三校で放課後子ども教室が開催されています。開催日が異なることもあり、開催されるすべての日に白岡市教育委員会の放課後子ども教室担当者は訪問し、運営に携わっています。

作品ができた子供から、宿題に取り組む時間となり、気持ち切り替えて、友達と教え合ったり、スタッフの方に質問したりして学習する姿がとても印象的でした。



分からない問題の相談にも乗るスタッフ



昇降口で保護者に引き渡し



完成した作品を手にする子供たち

菁莪小学校放課後子ども教室では、今回のようにスタッフのみで活動する日もあれば、地域の方を講師にしたり、社会教育関係団体等にお願いしたりすることもあります。ペットボトル工作やゲーム等は、白岡市教育委員会の担当者から提案をしております。毎年度違う内容ともなっているため、毎年参加している児童の中には、三年生の時に作ったスライムづくりをまたやりたい、と話す子もいました。放課後子ども教室を開催するにあたっては、これまで活動日とは別日に次回の打合せを行っていましたが、今年度から五月と二月の年間二回の打合せに変更したことで、より効率的になったと石川さんは語ります。今回は学校にあるアイロンを借りて行う内容であったため、家庭科室での開催でした。学校側の理解があつて特別教室を使って活動ができることもありがたしいことだとお話されました。

現在、菁莪小放課後子ども教室を担うのは主に地域住民の方々ですが、今後は保護者や卒業した中学生にもボランティアとして参加いただくように働きかけをしていくとのことです。

学校を核として



作品を目に子供に声をかける小林校長先生

「学校を核にして皆がつながり、菁莪に関わるすべての人が豊かで幸せな人生をおくってもらいたい」これは菁莪小学校小林大輔校長先生の思いです。「学校を核にして皆がつながる」ための取組として「菁莪小大人ライブ」が十一月に開催されました。「菁莪小大人ライブ」とは、菁莪小児童の保護者や地域住民が趣味や特技を披露する場で、学校の授業では味わえない学びを提供するものです。

今年度は「3Dプリンター体験」「空飛ぶコマ作り」「ヤギさんとのふれあい」「お囃子体験（岡泉囃子連）」「菁莪花笠音頭体験」「昔の物の見学・体験」の六つのブースが開設され、子供達も興味津々だったそうです。児童が自分の特技を披露する「菁莪小ライブ」も低・中・高学年ごとに開催されています。今年度は「わくわくまつり」において、児童主体の体験型イベント「こどもマルシェ」が新たな取組として行われました。学校を核とした地域づくりと、地域とともにある学校づくりが推進されている菁莪小学校の今後が楽しみです。



「菁莪小大人ライブ」でのヤギさんとのふれあい



シンボル「あおぎり」の木



菁莪小学校紹介

住所：白岡市上野田101-1

児童数：227名

開校年月：明治25年10月（開校134年目）

学校教育目標：豊かな学びで 幸せいっぱい 菁莪の子
やさしい子 かしこい子 たくましい子

学校HP：<https://www.fureai-cloud.jp/seigae/>



特集② 長幡小学校学校応援団

伝統となっている

梨栽培

上里町立長幡小学校（敷地昌明校長）では、今年で二十六年目となる梨栽培が行われており、長幡小の伝統事業となっています。学校だよりの名称も「なしの木」。「郷土を愛する学習」として年間指導計画に位置付けて、全学年が生活科や総合的な学習の時間で梨の栽培体験に携わっています。梨栽培の他、安全、読み聞かせ、図書運搬、学習支援、昔遊び、学校農園環境整備・緑化の学校応援団活動は、長幡小学校児童の学びや育ちをサポートしております。町の花であるサルビアの花の植え替えをする花ガールのほか、校内の松の木の剪定を学校応援団の手によって近々予定されています。学校からの依頼ではなく、学校応援団の方々から積極的に活動してくれるので、大変ありがたい、と校長先生は語ってくださいました。

学校敷地内では、学校応援団の方の協力により、野菜栽培体験（一年生・大根、二年生・サツマイモ、三年生・ブロッコリー）が行われています。毎年六月に学校応援団連絡会が開催され、活動内容の確認、コーディネーターとなる方をお願いをしています。学校応援コーディネーターの新井静枝さんは二十年以上、長幡小学校の学校応援団として民謡の指導をはじめ、様々な活動に携わっていらっやいます。そして十年近くコーディネーターとして、また、学校運営協議会の委員としても活躍されています。



コーディネーターの新井さん(右)

一月十九日。この日は五年生が梨の木の剪定を行いました。学校から歩いて約十分のところの梨園があり、長幡小学校の梨の木が三本あります。

あいさつを交わした後、すぐに梨栽培代表の相川崇樹さん、清水正和さんによるお話が始まりました。

「九月に摘み取りしたときと比べて何か気が付くことはないですか」と子供たちに問いかけ、子供たちの興味・関心、気づきに注目してお話を始める相川さん。子供たちはその問いを聞いて、意識して梨園を見渡し、木の状態を確認します。そして、剪定作業をするのはなぜなのかを考えさせます。この時期は梨の木に限らず葉がない状態で、枝が無数に伸びてしまっています。このままでは実が適切な状態で実らないため、剪定作業を行うのです。不要な枝や混みあった枝を切り落とし、日当たりと風通しを良くして樹形を整えることが目的です。



相川さん(左)と清水さん(右)



長幡小の梨園を表す看板

とはいっても、どこを切っているのかは子供だけでは判断が難しいので、相川さんや清水さんに確認して剪定をする必要になります。切ってはいけないところ、そこはどこかというところ、花が咲く部分です。では、その花が咲く部分は具体的にどこを指すのか、相川さんが児童に問いかけ、「まちがえてもいいから言ってみて」と温かい言葉で子供の発言を促しました。長年、梨に関する学習で子供たちと関わってきたからこそのできる言葉かけだな、と感じました。そして、花が咲くと思った部分を児童が指さすと「そう、ここが先端がぷっくりしているところが花の咲くところですよ。だから、ここは残さなくてはいけない部分だね。」と確認し、その後、安全に剪定が行われるよう、道具の説明をしてくださいました。



相川さんの話に聞き入る児童たち

今回はのこぎりとはさみを使います。すでに図工の学習で、のこぎりの使い方や学習している五年生とはいえ、外にある木の枝を切ること、そして頭より高いところにある枝を切るといふこともあり、より危険も伴うので、慎重に話を進めていました。頭の位置よりも高いところにある枝を切るにあたって、はさみやのこぎり、そして木くずが目に入らないように気を付けること、教室に戻ったら木くずが上着についていないか友達と確認することまで、丁寧に話をされました。細い枝ははさみで、太い枝はのこぎりで剪定します。この日は、子供たちの手で切っていくしましたが、お話によると、電動のこぎりでも切つて作業をすることもあったそうです。



頭より高いところだから大変

いよいよ、作業のスタートです。子供たちは三本の梨の木の下に入り、枝を切っていました。さあ、力仕事はまかせて、という気持ちの入った子もいれば、どれを切ったらいいか戸惑う子、のこぎりを久しぶりに使うことにやや緊張した面持ちの子もいました。細い枝から太い枝まで、切らなければならぬ枝はたくさんありました。

剪定体験



説明を交え、切るところを指示

子供たちの中には、のこぎりの刃がしなるのを見て、刃が折れないか心配になっている児童もいました。図工での体験があったからか「電動糸のこぎりのように刃が折れなければいいな」と口にする子もいました。切ってしまったいい枝をただ伝えるだけではなく、「この木をみてごらん」と比べて傷んでだめになっってしまったっているよね。「花の芽がここにあるから、ここを切るうか。」と、なぜその部分を切っているのかを教える場面も見られました。

最初は戸惑う児童が多かったです。最初は、一つ切り終わると、どんどん剪定していきなりました。なかなか切り進めない友達を見て、「力を入れなくて軽く切るといいよ」と自分でつかんだコツを友達に教える女子児童もいました。長い枝を切り終え、「すごく長い」と言って自分の身長と比べ、驚いている子もいました。時間が過ぎていく中で、慣れてきたころには終わりの合図が。



枝の状態について解説する清水さん



校長先生も一緒に作業



教え合いながら剪定作業



短い時間でたくさん切りました

短い時間でしたが、切った枝はまとめて置かれ、かなりの量になりました。清水さんは、今年の五年生は短い時間でたくさん切ってくれました、と感想を述べられました。体験を終えた児童からは「切れた時、気持ちよかった」「図工で学んだのこぎりの使い方を思い出した」「やる前とやっした後で、だいぶすっきりした」「高いところで、姿勢も慣れないこともあってか疲れた」「細い枝でもはさみでたくさん切ると手が痛くて、大変だと思った」などと、素直な感想を述べてくれました。

今年はいくつ？

梨の枝の剪定は冬の時期に行い、花が咲く四月には受粉の作業になります。令和七年は梨を一人当たり二個持ち帰ることができたそうですが、今年もつと持ち帰れるように、この梨園にたくさんのお実ができてほしいな、とみんな思っていることでしょう。



昇降口には1年間の梨栽培の様子が

大変な作業でも

相川さんは「大変な枝の剪定作業を、子供たちと触れ合いながら梨を育てることとは大変うれしいことです。長幡小の子供たちの梨の体験は一人一人の成長にもつながっています。さわる、枝を切る、どうしたら切れるのかを自分で考え、友達と伝え合うことで、それぞれに学びが生まれる。今は、たくさんさんの情報があふれていて、動画で何でも見られる状況にあります。実際、実際に体を使って体験することとって本当に大切です。」と力強く語っていました。「ここ何年かは順調に育った梨を提供することができています。年によっては台風や降ひょう等の被害にあうこともあり。そのため、常に自然と隣り合わせで、全てがうまくいくわけでは、ないことを学ぶ貴重な機会になることも大事なことです。と教えてくださいます。



作業前よりすっきりした梨の木

梨の生育に携わることのできる長幡小の児童は、梨を持ち帰り、家で食べるとき、単に味の感想で終わることは、ないはず。梨が立派な実になるまでに大変な思いをされている相川さんや清水さんなど、作り手の思いも汲んで、甘さを味わって食べるのだろうな、と思います。

今回の取材では、梨の栽培学習をとおして様々なことを学び、育ちをサポートしている梨栽培に携わる方々を、目の当たりにすることができました。長幡小の梨園の木から今年はいくつの実が収穫できるのか楽しみです。

長幡小学校紹介

住所：児玉郡上里町藤木戸145

児童数：154名

開校年月：明治6年9月（開校152年目）

学校教育目標：進んで学ぶ子

思いやりのある子

元気な子

キャッチフレーズ：「夢と笑顔と『ありがとう』があふれる長幡小学校」

学校HP：<https://sch.kamisato.ed.jp/nagashou/>



学校キャラクター「なしくま」

地域学校協働活動News①

地区	南部教育事務所	西部教育事務所	北部教育事務所	東部教育事務所
開催日	1月15日(木)	1月16日(金)	1月21日(水)	2月3日(火)
内容等	【情報提供】 戸田市の学校運営協議会に関する講話 【情報交換】 令和7年度地域学校協働活動の成果と課題等	【実践紹介】 東部地区地域学校協働活動実践発表動画視聴・解説 【協議】 令和7年度地域学校協働活動の成果と課題	【協議】 地域で子供を育てる意識の向上に向けた地域学校協働活動の充実～深谷市及び各市町の取組や地域学校協働活動情報通信「COLLABO」掲載の取組から～	【実践紹介】 地域学校協働活動に関する研究委嘱について 他地区地域学校協働活動実践発表動画視聴 【協議】 各自治体の地域学校協働活動推進に向けて

担当者会議における各地区の内容等

第二回地区別地域学校協働活動

県内四地区の教育事務所単位に設置されている地域学校協働活動担当者会議。学校応援団や放課後子供教室を担当する市町村の職員が参加しています。

第二回目は、全ての地区がオンラインで開催し、情報提供や協議等を行いました。この会議の中で話し合われた内容から、地域学校協働活動をより一層推進していくためのポイントとして考えられることは次の二点です。

学校運営協議会との連携

学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に推進し、教育委員会がそれぞれの持つ役割を十分に機能させることで、学校運営の改善と地域づくりに資する活動が一層進んでいくことが期待されます。そのためには、関係する行政機関の連携が大切です。学校運営協議会で意見を述べることの例として「学校への必要な支援」、「地域人材の活用に関すること」、「地域学校

担当者会議

協働活動に関する「こと」等が挙げられます。放課後子供教室を実施している学校については、学校運営協議会において、放課後子供教室の現状等を共有し、課題解決に向けて検討すること、実施内容の見直しや充実が図られ、活動の幅が広がっていくことが考えられます。

地域人材の確保

多くの市町村では、高齢化や後継者不足等により、地域人材の確保が課題となっており、そこで、重要となるのは、学校と地域をつなぐコーディネーター（地域学校協働活動推進員等）の存在です。下の表は、埼玉県における地域学校協働活動推進員等の人数です（文部科学省調査より）。昨年度より全体的に増えていますが、複数配置すること、多様な団体や機関の関係者の参画を促進し、人材の確保につなげることが期待されます。

埼玉県における地域学校協働活動推進員等の内訳 令和7年5月1日時点

	地域学校協働活動推進員	地域コーディネーター
配置数	703人(前年度から124人増)	1,511人(前年度と同じ)
うち、学校運営協議会の委員	409人(前年度から129人増)	594人(前年度から60人増)

地域学校協働活動News②

第二回地域学校協働活動 推進委員会

二月五日（木）にオンラインで開催し、今年度の地域学校協働活動の推進に係る事業報告、来年度の推進体制等について情報提供させていただきました。その後、担当者会議でもありましたが、地域学校協働活動実践発表会の発表内容を川口市、日高市、深谷市、春日部市の四市教育委員会担当者に発表いただきました。

そして、グループに分かれて「これからのコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けて」をテーマに委員それぞれの立場から意見を述べて情報共有いたしました。

県教育委員会には、幅広い関係者の意見を踏まえて地域学校協働活動を推進することが期待されています。そのため、本県では地域学校協働活動推進委員会を設置し、県内の地域学校協働活動の総合的な在り方や効果的な推進方策等の検討、研修の企画等を総合的に進めています。引き続き、関係部署間で連携し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組を一層推進してまいります。

また、二年間の研究委嘱に係る実践発表の内容につきましましては、次回のCOLLABO（VOL.5）で詳しくお伝えいたします。

今年度開催されたセミナー・研修会等

令和七年度に開催した生涯学習推進課主催のセミナーや研修会等を以下にまとめました。毎回、参加者にアンケートを依頼しており、全体をとおしての感想で「とてもよかった」「よかった」と回答した方の割合は九十五%以上と多くの方に満足していただける内容となりました。来年度につきましても、今年度のセミナーや研修会と同程度の開催を予定しております。



放課後子ども教室活動見学会



地域学校協働活動推進セミナー②

名称	開催日	開催方法(会場)	事例発表・講師等	参加人数
地域学校協働活動推進セミナー ①	7月30日(水)	オンライン開催	鴻巣市立赤見台中学校 文教大学 金藤 ふゆ子 氏	のべ122人 (うち動画視聴者58人)
地域学校協働活動推進セミナー ②	8月 8日(金)	集合開催 (県民健康センター)	CSマイスター 朝倉 美由紀 氏	43人
放課後 コーディネーター 研修会	9月5日(金)	集合開催 (県民健康センター)	入間市こども支援部青少年課 富士市放課後児童クラブ 全国体験活動ボランティア活動 総合推進センター 興梠 寛 氏	53人
放課後子供教室活動見学会	10月23日(木)	集合開催 (久喜市立久喜小学校)	久喜市放課後子供教室 くきっ子ゆうゆうプラザ	22人
地域学校協働活動 実践交流会	1月20日(火)	集合開催 (県民健康センター)	CS推進名誉マイスター 竹原 和泉 氏 CSマイスター 朝倉 美由紀 氏	50人

地域学校協働活動News③

地域学校協働活動実践交流会を開催！

夏のセミナーに参加された方からいただいた意見を踏まえ、日頃の疑問や課題を共有し、活動の質を高めるための地域学校協働活動実践交流会を一月二十日（火）に県民健康センターで開催し、五十名の方が参加しました。文部科学省CS推進名誉マイスター竹原和泉氏、CSマイスター朝倉美由紀氏をお招きし、講演・対談を行っていただきました。そして、地域学校協働活動に携わる方々が意見交換をし、それぞれの思いを伝えることで、大変有意義な時間となりました。



積極的に意見が交わされていました

参加された方の感想を一部紹介いたします。

地元に戻り、今日の内容を学校、地域、保護者の方々に話ができばと思います。子供たちのために何ができるかを考えさせられました。今後に生かしたいです。

自分だけで悩んでいてもなかなか解決しないこともいろいろな話をきくことでたくさんヒントをもらうことができました。

具体例を交えての講演と今日初めて会った様々な活動をしている人との交流は参考になり、大変よかったです。

目指す地域づくり、学校づくりについて、いいイメージを示していただけました。新たな学びを得ることができました。

もっている課題は違っても、実際話すことで共感し、いろいろな話を聞くことができ楽しかったです。

講師のお二人の話が経験に基づいて非常に重さを感じました。

※実践交流会の様子は、次号にも掲載する予定です。



どういふ子供を育てるか時間をかけても協議することが大切だという基本のところがおろそかになっていました。「何かをやること」が先になっていることはないか、もう一度考えたいです。

今後も自分自身がわくわくするような活動を続けていきたいです。

地域学校協働活動情報通信**COLLABO**は

地域と学校が相互にパートナーとして、連携・協働していくことが求められている今、県内各地の学校と地域の協働(collaboration)の様子について紹介していきます。年間5回の発行を予定しております。

発行元：埼玉県教育局教育総務部生涯学習推進課 令和8年2月発行

電話：048-830-6979 メール：a6975-05@pref.saitama.lg.jp(ご意見、ご感想、取材依頼はこちらまで)